

関西武夫原会だより

副会長 川添正實（法3回卒）

今年度の総会は平成八年一一月十五日、藤田觀光「太閣園」で開催されました。

今回の特色は、初参加者・御無沙汰参加者（業務多忙、海外出張などで久しぶりの出席）と平成卒業者が数多かつたことでした。初めての出席者が「いつかは出ようと思い続けていたが、やっと……」という声を聞くと、毎年開き続けてきた甲斐があつたという喜びを覚え、同窓会屋冥利？をつくづく感じました。

御無沙汰参加者と平成卒者は、北森事務局長の歓身的な呼び掛けの成果以外の何物でもありません。真名子浩敏君（平成元年）という逸材が出席してくれたことは、前途に光明を見出したの感があります。

何しろ新旧の間には、いつの間にやら四八年の時間差が出来てしまっているのですから、さながら一つの皿に活きの良い刺身とちぎった十物が盛り付けられているようなのですが、これから関西武夫原会は彼等の平成フレッシュ感覚と噛む程に味の出る、昭和干物感覚がミックスされ益々楽しいブランド味の会に成長して行く事が期待されます。ところで、大会は今年も佐々木君（13回卒）の総合司会で進められ、余興は三好（14回卒）岡本（22回卒）中野（23回卒）の諸君で賑やかに催されました。

今回の余興を御披露しましょう。

企画は上田君（20回卒）で「熊本ビンゴ」です。出席者に配られた紙には3×3の九個の升目が印刷されていました。ナンジャこれは？という一同の怪訝なざわめきの中、中野君の声が会場に響きます。

「みなさん、熊本あるいは熊本県と聞いて思い浮かぶものを九つ書き込んで下さる」……ああガヤガヤあれだこれだとカンニングは公認、どこに何をはじめ込むかでの勝負です。毎回豪華賞品をかつさらって行く蓑田君（9回卒）は、それは場所か建物か名産物か、形の無い物でもいいのか／文字数は関係ないのか／と立ち上がって身振り手振りの質問。ワハハ……いや感心です。武夫原会員はトシをとっても何事にも真剣に立ち向かっています。

書き終わったところで、中野君が「熊本城、五つ木の子守唄、夏目漱石、馬刺：」と読み上げて行きます。こんなもん直ぐbingo（縦か横か斜めに揃う事）出来るわいとタカをくくっていましたが、ドッコイなかなか揃わないではないか。皆んなの嘆声、悲鳴を楽しむかのように次々と続きます。読み上げられた全部は書けませんが、主だったものは、竜田山・白川・銀杏・もっこす・芥子レンコン・水前寺公園・肥後ずいき・草千里・画津湖・加藤清正・通潤橋・上通り・下通り……etc. 要するに根拠なくバラバラなのですがつながってくられません。

ま、それでも徐々に名乗りが上がった幹事・有志の持ち寄った景品を手にしてのニコニコ顔はいつもの光景でした。特に今回の庄巻は中野君が提供したトイレットペーパー（12ロール）でした。これは彼が兼松江商紙パルプ部で同社製品を大量に提供してくれたのですが、当初はたかがトイレットペーパーではないかとたかをくくっていましたが大きくて、軽くて包装がカラフルで見栄えがして、思いの外の人気。会社では恐らくやかましいエリート幹部であろう面々が、喜々として抱きかゝえて帰る姿は何とも微笑ましいものがありました。かくいう私もその一人でした。

古い年代が期待した、「高田原（こうたばる）」、「一本木」とか谷会長が書いていた「初恋」などは読み上げられませんでした。（しかし、どんな恋物語だったのか気になりますね！）

そんなこんなで今回も武夫原頭に草萌えての大合唱（巻頭言は甲斐君・6回卒）と一本〆（真名子君）で目出度くお開きとなりました。

最後になりましたが、来賓として本部から山中常任理事、東京から九鬼会長・笛原幹事長、そして関西志文会、紫苑会（熊本県立大学）熊本市大阪事務所、中川恩師、徐海洋嬢（中国・熊大修士修了）の皆様の御出席を頂きました。

